

.....

うきたむ考古通信

.....

2026年1月号

■発行者	うきたむ考古の会
事務局	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 内
	〒992-0302 山形県東置賜郡高畠町安久津2117
	電話0238-52-2585 Fax 0238-52-4665

これまでの体験事業の結果

1 ガラス玉をつくろう

今年度2回目が11月15日(土)に開催されました。参加者は14組で前年度に比較し大幅に増加しました(前年度4組)。

2 大人の自由研究②

今年度は11月22日、11月29日、12月7日の3回の開催を計画しましたが、11月29日は参加申し込みがなく中止となりました。サケの遡上数が少なく、開催が危ぶまれましたが、今年から箕輪鮭生産組合に変更し、なんとか、開催できるオス鮭の確保ができました。参加者は1回目が5名、3回目が6名と例年に比べ少なかったのですが。世喜んで、持ち帰っていただきました。

3 「コースターをつくろう」(簡易織機、あんぎん台使用)

11月29日(土)に開催され参加者は4名でした。

4 「古代風ブレスレットをつくろう」

11月29日(土)に開催され参加者は3名でした。

👁️ ♥️ 展示状況

山形県指定有形文化財「お花山古墳群出土品」資料公開

令和8年1月9日（金）～3月

山形県県民文化芸術振興課博物館・文化財活用室が主催する県が所有する指定文化財の資料公開が企画展示室の一隅で開催されます。今年度は令和18～23年度と令和2年度に保存修理事業が行われた「お花山古墳群出土品」を1月9日（金）から展示しています。



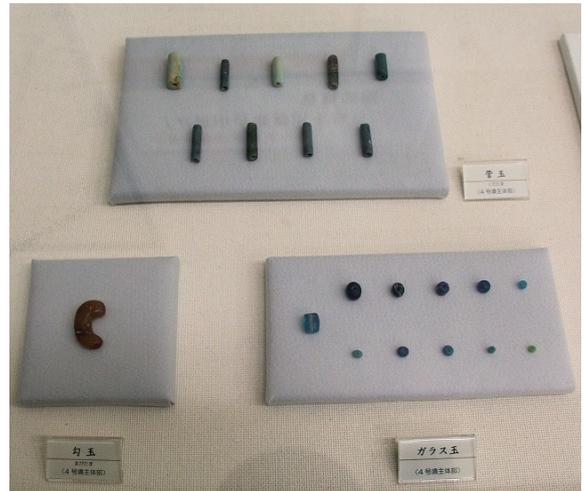
エントランス



展示状況



1号墳鉄剣



4号墳玉類



1号墳1号木棺出土櫛



6号墳木棺出土櫛



24号墳出土鉄鎌

続し、隆起線文土器期は古本州島に広く遺跡が分布し、遺跡数が増大することから人口も増大したこと、爪形文・押圧縄文・多縄文土器期は炉穴など各種の遺構や集落が出現するが、人口は減少したと考えられることを、多くの遺跡の例を図・写真とともに紹介いただいた。

最後に食糧にいち早く堅果類が加わる草創期の南九州の生活の様子、爪形文土器が海産物の煮炊きに使われた北海道の例と草創期の石器の変遷、縄文時代早期になると、どのように生活が変遷するかのお話をして頂き、結びとなった。

♥今後の予定

1 うきたむ学講座

2月1日(日)、3月1日(日)に開講

※別添チラシ参照 受講者募集中です。

2 山形の考古資料検討会

※別添チラシ参照 参加者募集中です。

11月15日(土)

※照明設備更新のための休館

3月に工事が予定されていますが、工事期間に休館措置が取られる可能性があります。日程がきまりましたら当館ホームページでお知らせいたします。

